

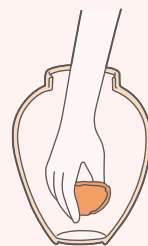
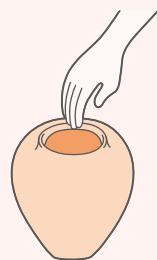
壺のなかの陶片に触れていただくことができます。体験されたい方は、係の者にお声かけください。一度に体験できる人数は5人までです。陶片に触れる前に、つぎの文章をお読みください。

### 準備編

荷物は机上に置き、壺や陶片を傷つけるおそれのある指輪・時計・ネックレスなどを外し、手指の消毒をお願いします。

### 体験編

- 1：壺のなかには、八瀬陶窯から発掘された石黒宗麿の陶片が1個～4個ほど入っています。
- 2：片手を壺のなかにそっと入れ、壺の底に置かれた陶片に優しく触れ、しばらく味わってみましょう。
- 3：映像のなかの陶片や言葉、壺の側面に記された文字も手がかりになります。
- 4：壺のなかから陶片をそっと取り出し、両手で陶片を味わいましょう。
- 5：体験が終わりましたら、壺の底にそっと陶片を戻してください。



## 陶片からなにがみえるかな？

「ABCコレクション・データベース Vol. 1 石黒宗麿陶片集」

<https://www.momak.go.jp/senses/abc/ishiguro/>



八瀬陶窯から発掘された26個の石黒宗麿の陶片を作家 (Artist)、視覚障害のある方 (Blind)、学芸員 (Curator) の視点から紐解いたWEBサイトです。中村裕太が陶片から読み解いた石黒の陶器作りの文章、安原理恵が陶片を触察し言葉にした映像、学芸員が当館のコレクションとのつながりを再構築した文章を掲載しています。

### カキ\_ノ\_エダブリ

石黒宗麿は、1936年に伊勢の呉服商の息子である長谷川忠夫（1905-1952）の援助を得て「八瀬陶窯」を築窯する。広大な敷地には、主屋の他に、茶室、倉庫、登り窯がある。主屋は、安普請ではあるが、建築意匠に石黒の遊び心を垣間見ることができる。たとえば、仕事場であった土間の囲炉裏の縁には数個の陶片が埋め込まれ、襖には陶製の把手が嵌め込まれている。妻のとう（1898-1983）は、庭での畑仕事に勤しみつつ、桜、椿、梅、楓などの植栽を手入れした。この陶片には「八瀬陶窯」と染付で筆書きがされ、落葉した柿の木と主屋が描かれているのが分かる。（中村裕太）



1



2

- 1:  
〈八瀬陶窯の柿の木と石黒宗麿〉  
1956年頃、射水市新湊博物館提供
- 2:  
〈八瀬陶窯から発掘された陶片〉

八瀬陶窯  
石黒宗麿  
1936年